

2011年11月5日の調査状況





1. 概要


チャオプラヤ本川及び右岸側水路の堤外，チャオプラヤ本川沿いの堤内，バンコク西部の3方向に分かれて浸水エッジの把握，各治水施設の運用状況の把握，インタビューを実施した。特に浸水エッジにおける水防活動及び排水施設の稼働状況の把握に努めた。

2. 調査結果



【チャオプラヤ本川及び右岸側の水路の堤外】

調査エリア Area	チャオプラヤ川およびチャオプラヤから西に通じる水路(バンコクとノンタブリの境界)	
調査目的 Purpose	チャオプラヤ川本川及び西側水路の機能と浸水被害を堤外から確認。ボートを使用した。	
Report	<p>① RID 局長の話</p> <p>水路によるタイの洪水対策システムの話を知った。北から流れてきた水を東西方向の水路に水を落とし、ポンプで西と東の川に排水する、というのが基本的なシステムだが、ポンプのキャパシティや水路・川の流下能力の不足の問題により思惑通りには機能していない。しかし最大の問題は東西水路で分けられたコミュニティ同士で協力・情報共有がなされていないことにあると言えそうだ。</p>	
	<p>② 水路の様子</p> <p>水路の北側(ノンタブリ)と南側(バンコク)とで状況が大きく異なる。北側は堤防(防護壁)がなく、水際ぎりぎりに並ぶ家々は1m以上浸水していたのに対し、南側は寺院も立地しており、バンコク市によるpublicの堤防があり住民の所得水準も北側よりは高そうだった。堤防は水路で区切られたコミュニテ</p>	

	<p>いごとに整備されており、自地区の「防護」重視、連携の不十分な洪水対策が見て取れた。</p>	
	<p>③ ノンタブリ側 ノンタブリは 5~10 年前までは農業地域で、洪水を防ぐという考え方はなかった。今は発展して都市化が進み、水路に近接したところにも人が住むようになったため堤防がないことが問題になるようになった。写真の奥はノンタブリの市街地。水路に堤防はない。</p>	
	<p>④ 水路北側の堤防 ノンタブリ側にも堤防のある箇所が確認された。これら堤防は富裕層のプライベート堤防と考えられる。</p>	
	<p>⑤ 水路南側の開口部 この水路は舟運と洗い物に使われるため、家から直接アクセスするための堤防の切れ目が各戸に見受けられた。行政は堤防に開口部をつくるのを規制せず、洪水時に土嚢で開口部を塞ぐのも個人で行われており、行政の管理体制の甘さを感じた。</p>	


	<p>⑥ 本川右岸浸水した街 堤防がなく、チャオプラヤ本川からの水により 1m ほど浸水していた。住民たちは洪水に慣れており、避難せずにこの場所で生活を続けているようだ。家に入り出るのはボート。バンコク市内他の所と同じく道路のほうが家より一段高くなっているのに、家の塀の中の水深は道より深く、1.5m ほど。</p>	
--	--	--

【チャオプラヤ本川沿いの堤内】



<p>調査エリア Area</p>	<p>チャオプラヤ川沿川を下流から上流方向に向かって</p>	
<p>調査目的 Purpose</p>	<p>浸水エリアの端の調査</p>	
<p>Report</p>	<p>①Department of Corections チャオプラヤ川に面している。タイ中の刑務所を管理している。現在、住居が浸水被害に遭った Department of Corections の事務員の多くが住んでいる。土嚢を川沿いよりも、施設よりの内側に置くことで、少しでも下流の水量が減るようにしている。</p> <p>②放水用施設 通常、雨季は西側に水を流すように使われている。現在は西側の水位が高いため使用できず。</p> <p>③チャオプラヤ川東側の浸水エリア 9月から浸水が始まった。 15 個の排水機があり、1300(l/d)</p>	 

	<p>ガソリンを使用する。 川沿いのエリアだけで浸水を止めている。</p> <p>④ チャオプラヤ川東側の川沿い元の堤防が壊れており、土で造られた、緊急堤防あり。 土の堤防の高さは3 m前後、長さは途中建物等で途切れるが、数kmほど。土は、アユタヤからボートを使って運んだ。 元の堤防は、壁1枚のもの。土の堤防より若干高さは低いが、3 mほどの高さ。厚さは15 cm程度。</p>	 
--	--	---

【バンコク西部(チャオプラヤ川右岸)】

<p>調査エリア Area</p>	<p>チャオプラヤ川右岸(チャオプラヤー川右岸水門およびポンプ～キングスダイク南端水門・ポンプ群～浸水エッジ調査)</p>	
<p>調査目的 Purpose</p>	<p>各水門・ポンプ機の稼働状況の確認、浸水エッジの確認、インタビュー、サンプル水の採取</p>	
<p>Report</p>	<p>① チャオプラヤー川右岸水門及びポンプ機。BMA 管轄。付近の住民と操作員にインタビュー。インタビュー直後が水門の操作を行う時間。操作員はポンプ機の排水能力を知らない。</p>	

	<p>② キングスダイク南端水門及びポンプ機。付近の住民と操作員にインタビュー。水門は2つでおそらく開門としての機能を持つ。排水能力は15t/s。到着時に船を使用して水路のゴミを海方向に出す作業をしていた。普段ゴミの除去は機械を使って行うが、処理場が浸水し使用できないために11/5より船を使用したゴミ除去を行い始めた。排水のオペレーションは5月から雨季の仕様(水路の水位維持)に変更になっているが、今回の洪水に対して特別な対策やオペレーション変更は行っていない。高潮対策を主眼に置く水門の可能性あり。</p>	 
	<p>③ キングスダイクの南端水門及びポンプ機。操作員と付近の住民(1人のみ)にインタビュー。水門は2つで排水後の水路は2又であるが、Googleマップを見る限りこの水路はすぐに合流している。排水能力は両機合わせて30t/s(各機3t/s×10機)。今回の洪水に際して特別なオペレーション変更はしていない。</p>	 

	<p>④ 浸水エッジ。付近の住民にインタビュー。私見だが排水が機能していないように見えた。内水氾濫の可能性あり？</p>	
	<p>⑤ 浸水エッジ。11/4 の浸水エッジからの変化を確認。確かに浸水域は南下し、浸水深は大きくなっていたが、思ったよりも変化していない印象。付近の住民にインタビュー</p>	

以上.